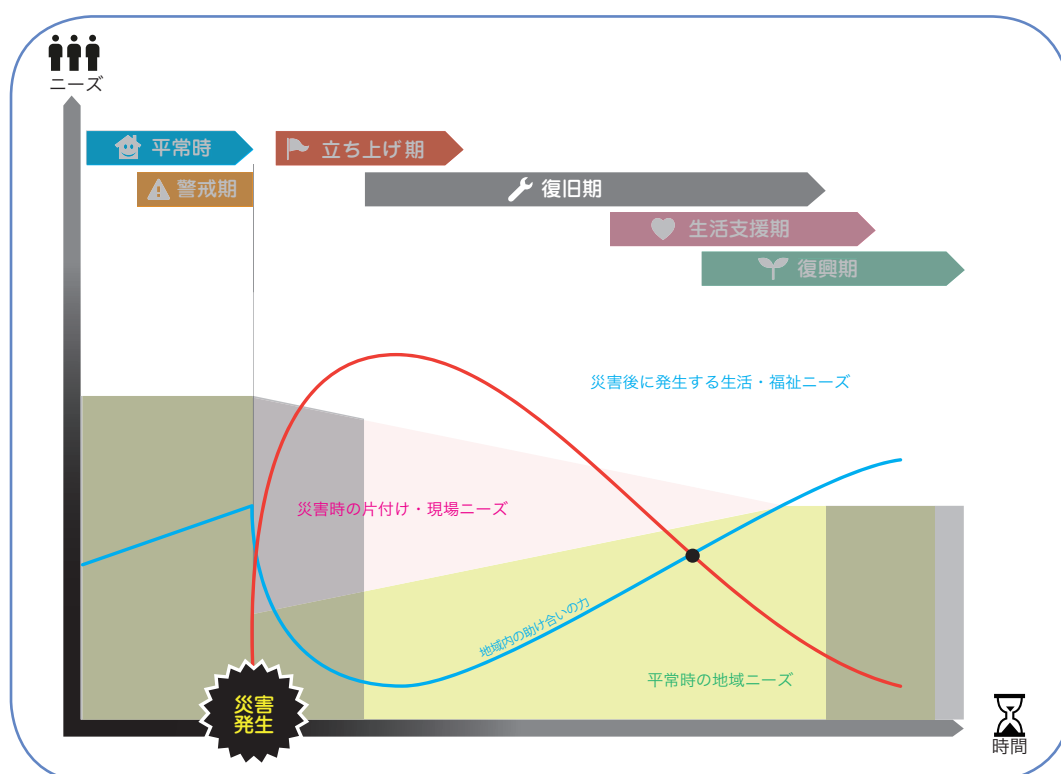


4 復旧期

災害VCの運営初期。災害発生から間もないこの時期は、家屋からの泥だしやガレキの撤去など清掃系のニーズが目立つ時期でもあります。



復旧期

～いよいよ災害VCの運営がスタート！～

いざ災害VCの運営がはじまると、その忙しさから「ボランティアセンターを運営する」ということばかりに目が向きがちに。また、運営中には災害VCの運営の方向性を左右するような「ここぞ!」という判断に迫られることがあります。運営に迷いが生じたとき、困ったときは「誰のための・何のための災害VCか」ということに立ち返ってみることが大切です。

1 復旧期の災害VC運営のポイント ～“被災者中心”の災害VCの運営を目指して～

災害VCが開所されると、災害の規模によっては多数の個人ボランティア・支援団体等による復旧活動が急ピッチで進んでいくことになります。災害VCの運営スタッフには、被災された方とボランティアとの間に立ち、お互いの想いを上手くマッチングさせる“コーディネート”のスキルがまさに求められる時です。被災者の生活復旧のための災害VCである、ということの基本におき、住民のニーズを出発点に活動を展開することが求められます。

地域住民、被災地域の多様なニーズにとっての

相談所機能

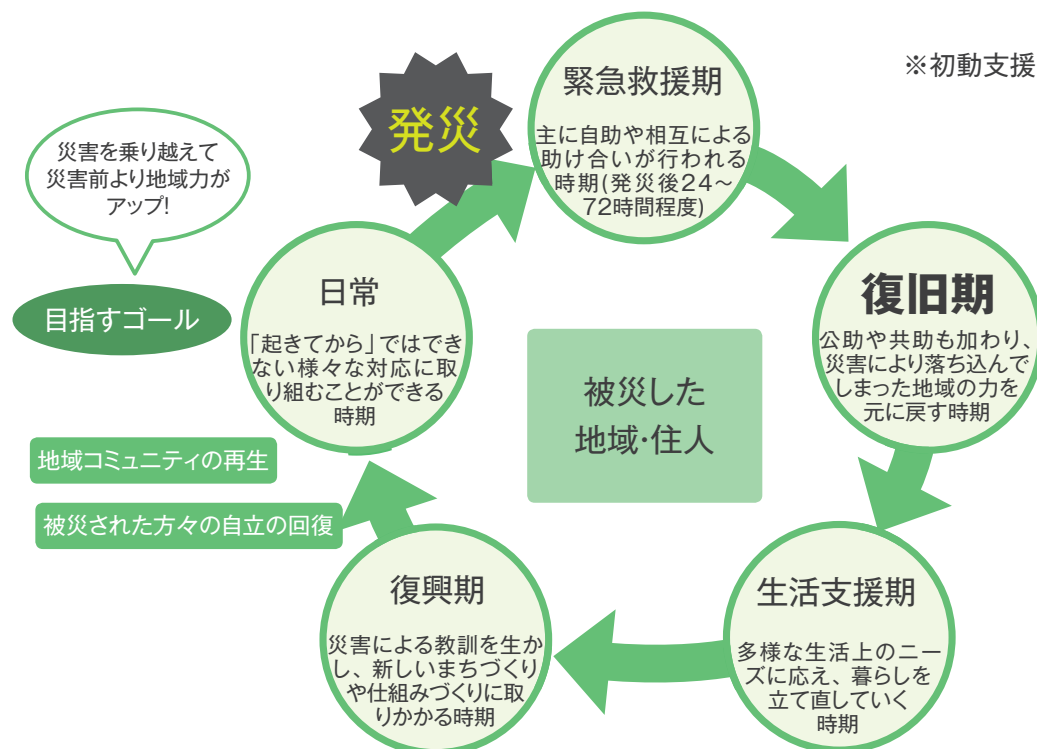
被災地を応援したいボランティア(企業や組織・団体を含む)にとっての

案内所機能

災害VC

災害VCの目指すゴールと支援のサイクル(イメージ図)

※初動支援チーム研修資料加筆



復旧期の災害VC運営のポイント

- ☐ 災害VCは被災者中心、地元主体、協働の三原則での運営を基本とする。
- ☐ 災害の状況や被災地域に合わせたニーズの把握方法を検討する。
- ☐ マニュアルどおりにことは進まない。混乱して当たり前と思うこと。
- ☐ 変化する地域の状況の把握に努め、地域の状況や経過によって各班の統合や再編等を随時行う。
- ☐ 混乱を防ぐためにも災害VCからの“情報発信”を意識的に行う。
- ☐ 運営のコアになるスタッフ間で、急性期のニーズが落ち着いた後の展開を想定・共有しておく。

コラム

役割・機能をセンターにどう配置するか

南丹市災害ボランティアセンターは、運営マニュアルでは「ボランティア受付・ニーズ班」として複数の機能を1つの班とし、設置場所もひとくくりに想定していました。

ところが、平成25年台風18号豪雨災害では、センター開設場所の物理的制約から、ボランティア受付機能は屋外に、ニーズ受付機能は「総務班」などとともに屋内の事務所にと、互いに目の届かない場所に分散してしまいました。

ちなみに、屋外は、来所されたボランティア活動希望者が「受付→待機→マッチング→資機材貸出→出発(送り出し)」と1本の動線に沿って流れができるように各機能の配置を工夫しました。

マニュアルでは、目の届く範囲の1つの場所(グラウンドや体育館)にすべての機能を配置するイメージを描いていたので、機能が屋外と屋内に分かれてしまったことに不安もありました。

しかし、「結果的に」なのですが、ボランティアへの支援機能と、被災者への支援機能とが物理的に別々の場所に分かれたことが良かった面もありました。

電話などで被災者のニーズを聞き取りニーズ票に落とし込んでいく作業は、途中で別の作業が割り込んでしまうと、大切な情報の抜け落ちが生じてしまう恐れもあり、マッチング機能につなげるまでの「前さばき」に集中してあたれる環境があったことで、非常に効率的にマッチングにつないでいけたのではと思います。

さらに、事務所では、前もって団体で活動を希望されるボランティアの問い合わせなどにも対応していたため、ニーズと活動希望者の受給の具合について、ある程度目処を立てることができたのも大きかったです。

ただし、やはり各機能間で瞬時に連絡したり情報を共有したりすることはとても大切なので、敷地内をカバーする無線機の活用は非常に有効でした。

携帯電話が1対1の通話となってしまうのに対し、無線機は所持者に一齐に発信できるメリットもあるので、機能ごとに所持者を明らかにして無線機を配置しておく、互いに顔が見えない場所に機能が分散しているような災害ボランティアセンターでも、瞬時に連絡などのやりとりができ、かつ互いの動きもある程度知ることのできることで、災害ボランティアセンターには、無線機は必須アイテムかと思っています。

2 被災者ニーズの捉え方

(1) 災害時の被災者ニーズの考え方

- 災害時に発生する被災者ニーズとは、①災害によって新たに生じるものと、②災害前から抱えていた日ごろの課題が被災をきっかけに顕在化・悪化するものがある。
- 家屋内外の片付けや清掃などのニーズは最も目に見えてわかりやすいが、精神面・肉体面・経済面等、それ以外の視点から見えるニーズは潜在化しやすいため注意が必要。
- 時間の経過によって、被災者のニーズは変わっていく。特に支援期間が長期化するほど、被災者ニーズはより個別的なものへ変容する。
- 「助けてほしい」というSOSは本人から挙がりづらいということを知っておく。SOSの拾い方はその地域の地域性や本人をとりまく環境に合わせる工夫と努力が必要。

物理的な側面

家屋や家財の損害・インフラ破壊

肉体的な側面

けがや体調の悪化・災害関連死

精神的な側面

恐怖や不安・記憶の蘇り・認知症の悪化

経済的な側面

収入の現象や途絶・生活費用の増大

社会関係の側面

家族や地域の絆の断絶・社会との関わり

情報に関する側面

社会制度に関する情報や申請や契約

※災害時に生じるニーズの多様性（初動支援チーム研修資料より）
（一社）コミュニティ4・チルドレン乗原氏の資料に
NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク李氏加筆修正

(2) ニーズ把握

災害VCにとって、“被災された方のニーズをいかに把握するか”ということが非常に大切です。被災者中心のボランティアセンターを実現するために、最も力を注ぐべき部分ともいえます。

< ニーズ把握の方法例 >

方法	活動例
個別訪問による把握	・ 災害VC、民生委員・児童委員、保健師、地域包括支援センター、福祉専門職チームなどによる個人宅の訪問による聞き取り
組織・団体経由による把握	・ 自治会などの地縁団体ごとのニーズ把握 ・ 福祉施設や福祉事業所からの利用者に関するニーズ把握 ・ 当事者組織、ボランティアグループ等からのニーズ把握 ・ 支援に入っているNPOやNGO等の支援団体との情報共有
広報ツールによるセンターの周知	・ チラシの配布や、回覧板、ホームページやSNSでの情報発信、新聞・TV・ラジオ等での情報発信



1 平常時



2 警戒期



3 立ち上げ期



4 復旧期



5 生活支援期



6 復興期

災害VC様式(集)
ガイドライン

ニーズ把握のポイント

- ☐ ニーズ把握の方法は、被災した地域、被災した住民にとって最もニーズが把握しやすい方法を検討する。
- ☐ 一つの方法や方向だけでなく、他の団体・機関とも協力し多方面から当たることも検討する。
- ☐ 時間の経過とともに地域や被災された方の状況は変化するため、複数回のアプローチが必要。

コラム

ローラー作戦

平成 24 年南部豪雨災害では、弥陀次郎川の決壊で、一番被害の大きかった五ヶ庄西川原地区を週末の土・日に集中してのボランティアの支援を計画しました。コーディネーターとボランティア 10 数名が 1 チームとなり住宅街を地図上でいくつものブロックに分け担当者を決めます。そのブロックの家を 1 軒 1 軒訪ねニーズの聞き取りをしていき、その場でボランティアとのマッチングを行いました。被害の大きな家がいくつもあるブロックとすでに作業が完了しているブロックもありました。それぞれのコーディネーターが連絡を取り合うことで、ブロックの垣根を越えたボランティア調整ができ、被災された方のマッチングもできて、直接、顔を合わせたニーズ調整ができました。

また、現場に入らないコーディネーターがいることで現場も状況 (必要な機材やボランティアの状況) が本部に伝達しやすいメリットがありました。

※その時の感想として、ボランティアの人数が多い場合、サテライトを現場近くにおくことでよりスムーズな支援ができる。そして、どんな時にでも天気予報に注意をする事。雨 (雷) の予報の場合、早く中止する判断も必要です。

コラム

地元の力がボランティアを支える！

一日も早く” いつもの町に戻りたい” 昨日より今日、今日より明日へと。毎日毎日ミーティングが行われました。そんな中、ボランティアを送り出すセンターの前には、自然と『水分補給班』ができました。塩分補給の飴も配られました。「ここの係りは私達でできます」と申し出てくださったのは、なんと、地元の『介護者の会』の方々でした。作業を終えて帰って来られたかたにも「水分補給してください。ご苦労様でした。」とやさしい声をかけて下さいました。その後、『介護者の会』の方は、もっと会員の方の繋がりの必要を感じられ『介護者の会』メンバーのマップを作る取り組みへと展開していきました。

3 情報発信と情報収集

(1) 情報発信

災害 VC から正確でタイムリーな情報を発信することは、円滑な運営を行う上で非常に重要です。被災者へボランティアセンターの的確な情報を届けること、また、ボランティア希望者にも的確な情報を届けることで、混乱を防ぐことができます。情報の内容や届けたい相手は誰か？ということをも材料に、発信の仕方も吟味することが大切です。

また、平常時から災害時の情報発信の仕方やルールについて検討しておくことで、スピードが求められる災害時の情報発信にも備えることができます。

〈復旧期に発信が必要な内容〉

誰に？	どんな内容？
被災された地域・住民	・ボランティアセンターの基本情報 ・ニーズ受付情報(連絡先・場所・時間・支援内容etc...) ・ボランティアセンターの活動の様子 etc.
ボランティア活動者	・ボランティアの募集情報 (連絡先・場所・アクセス・時間・持ち物・活動内容 etc...) ・ボランティアセンターの活動状況 ・被災地域の様子やボランティアニーズの状況 etc.
広く市民一般	・ボランティアの募集情報や状況・復興の様子 etc...

〈情報発信のツールと特徴〉

ツール	情報の種類
プレスリリース	広く正しく伝えたい情報。マスコミからの周知も活用したい情報 (例)・災害VCとしての公式見解・活動方針・方針転換 など
ホームページ	初めて情報を探している人でも、見つけられる必要のある情報 (例)・持ち物・集合場所・受付方法・活動上の注意・寄付の仕方 など
マスコミ(新聞・FMラジオ・ケーブルテレビ)	広く正しく伝えたい情報 (例)・災害VCとしての公式見解・活動方針・方針転換 など
Twitter	日々変わるけどタイムリーに伝えたい情報 (例)・今日のボランティア人数・今日の募集締め切り・地域の変化・嬉しいこと、悲しいこと など
facebook	雰囲気や日々の情報が伝わることで、応援してくれる人が増えるかもしれない情報、日々変わるけどタイムリーに伝えたい情報 (例)・活動の様子・今日のボランティア人数・今日の募集締め切り・地域の変化・嬉しいこと、悲しいこと など

(2) 情報収集

地域の被災状況や被災者ニーズは時間の経過と共に変化するため、継続的に情報収集を行うことが必要です。情報収集の方法は、先の「2. 被災者ニーズの捉え方」に記載のとおり、実際に地域に出て確認することや、災害 VC に関わる関係団体を通じて情報を収集することも大切です。

また、災害時には官民間問わず様々なひと・もの・お金による支援活動が展開されることから、そういった「支援情報」にも普段からアンテナを立て知っておくと、災害時の混乱の中で役に立つことがあるのではないのでしょうか。

特に被災された方の生活復興に関係のある「行政施策(制度・サービス)」については、情報収集しておくことで支援につながられることがあります。



1 平常時



2 警戒期



3 立ち上げ期



4 復旧期



5 生活支援期



6 復興期

災害VC様式(集)
ガイドライン



4 復旧期



1
平常時



2
警戒期



3
立ち上げ期



4
復旧期



5
生活支援期



6
復興期

災害VC様式(集)
ガイドライン

被災者支援に関する法律や制度

- 災害救助法
内閣府防災情報
<http://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujo/kyuujo.html>
- 激甚災害制度について
内閣府防災情報
<http://www.bousai.go.jp/taisaku/gekijinhukko/>
- 被災者生活再建支援制度について
内閣府防災情報
<http://www.bousai.go.jp/taisaku/seikatsusaiken/shiensya.html>
- 災害弔慰金、災害障害見舞金の支給等について
内閣府防災情報
<http://www.bousai.go.jp/taisaku/choui/choui.html>
- 被災者支援に関する各種制度
内閣府防災情報
<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagyousei/seido.html>

参考

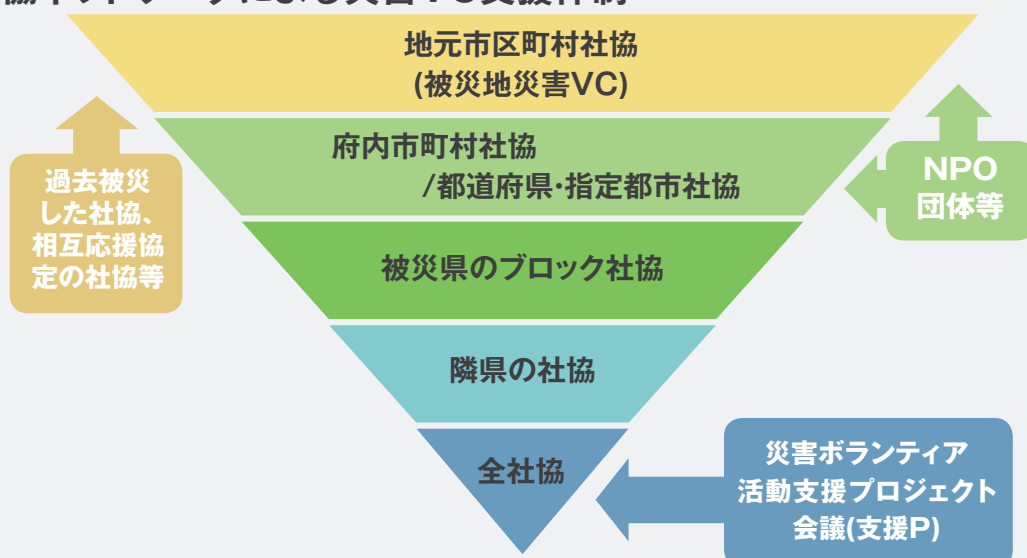
～ 全国で活動する災害支援団体 ～

● 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOD)

<http://jvoad.jp/>

災害に活動する全国の様々な支援団体のネットワーク組織として、平成 28 年に「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOD)」が組織されました。官と民、民間団体同士の連携をつくり出し、支援の抜けや漏れを起こさないために、情報の集約と広域でのコーディネートをするための仕組みづくりを目指しています。

● 社協ネットワークによる災害VC支援体制



4 災害VCの各部門と一日の流れ

(1) 想定される各部門の役割

災害VCの規模やスタイル、運営スタッフの人数等によって、部門の統合や新設を検討します。

部門	役割
総括 (センター長、副センター長)	・ 全体総括、渉外 ・ 運営総括、マスコミ対応、本部長の補佐 ・ 府災害ボランティアセンター、地元災害対策本部との連絡調整
総務	・ 外部からの運営支援者との連携、調整 ・ 災害VC運営に関する会計処理 ・ データ管理、写真等の記録 ・ 「ボランティア活動証明書」の発行 ・ ボランティア保険会社への対応 ・ 災害やVCに関する問い合わせ、相談、クレームへの対応 ・ 被災者、被災地域からの相談対応 ・ ホームページ、SNS、新聞等での情報発信 ・ 寄付等の受入 ・ 資機材や駐車場や駐車場用地の確保 ・ スタッフやボランティアの健康管理
ニーズ受付・調査	・ 災害VCの設置とニーズ受付に関する広報 ・ 被災状況の現地調査、ニーズの把握・調査 ・ ボランティア依頼票の作成 ・ 依頼者からの電話や来所による受付、ヒアリング
ボランティア受付	・ ボランティア活動希望者の受付 ・ ボランティア活動後の活動報告書の受け取り ・ ボランティア保険加入手続き ・ ボランティア数の集計
マッチング	・ ニーズとボランティア活動希望者とのマッチング ・ マッチング数の集計 ・ 依頼者へのボランティア訪問前の電話調整と確認 ・ 活動指示書に基づくボランティアの確保とチーム編成 ・ 活動中のボランティアからの問い合わせ対応、連絡調整
オリエンテーション	・ 活動者へのオリエンテーション ・ 活動待機者への対応
資機材	・ 必要な資機材や物品の貸出、返却チェック ・ 資機材の管理(数量管理や消毒など)
送り出し・配車	・ 配車調整と管理 ・ 活動先までの送迎の調整(送迎が必要な場合) ・ 駐車場の整理
要配慮者支援	・ 要配慮者のニーズ把握 ・ 専門職と連携した健康相談、心の相談



1 平常時



2 警戒期



3 立ち上げ期



4 復旧期



5 生活支援期



6 復興期

災害VC様式(集)
ガイドライン

(2) 災害VC一日の流れ(例示)

天候、季節、活動場所までの移動距離、その他活動状況によって活動時間は柔軟に検討します。

🕒	8:00~	● 朝の打ち合わせ
🕒	9:00~	● 災害ボランティアセンター開所
		● ニーズ受付開始
		● ボランティア受付開始
		● ※ボランティアの送迎が必要な場合は送迎開始
🕒	10:00~	● 記者発表(TV・夕刊向け)
🕒	14:00~	● ニーズ受付終了
🕒	15:00~	● マッチング受付終了
		● ※ボランティアの送迎が必要な場合は送迎開始
🕒	15:30~	● ボランティア活動終了
		● ボランティアはVCへ帰所後、活動報告
🕒	17:00~	● 災害ボランティアセンター閉所
🕒	17:30~	● スタッフミーティング
		● ① 各班よりの報告、問題の対応策
		● ② 各班での打ち合わせ
		● ③ 報道発表・HP更新事項のすり合せ
🕒	18:00~	● 記者会見(正副センター長)
		● ※長期化する場合は、この中から輪番で
🕒	19:00~	● スタッフ退所

コラム

悪天候時の、ボランティアセンター活動中止の決断

福知山市災害VCでは、平成26年8月豪雨災害時に非常時体制に移行し運営を行いました。その際、大雨注意報、大雨警報が発表された日は活動を中止としました。これは、すでに地盤がゆるんでいる土地での土砂災害等による2次災害を防ぐためであった。朝から中止した日もあり、わざわざ来てくださったボランティアさんに中止を伝えることは大変心苦しいことでした。

しかし、安全が一番大事であることをVCを運営する者全員に周知していたため、事前にボランティア受付時やホームページで「悪天候時には活動を中止する場合があります」と案内したり、中止の判断も迅速にできました。そのため、ボランティアさんが一人も被害を受けず安全な活動をしていただけました。

(3) ボランティア活動の流れ（ボランティア目線）

● 次のような一般的な流れで活動をすすめます。

情報収集/準備

- ・ 災害VCや社会福祉協議会などのHPなどで情報を入手。
- ・ ボランティアバスの募集等への申込み。
- ・ 最寄りの社会福祉協議会でボランティア保険に加入。

受付

- ・ ボランティア受付票に必要事項を記入、ボランティア保険の加入手続きを行う。

マッチング

オリエンテーション

- ・ 活動先の調整。
- ・ グループの編成。リーダーを決める。
- ・ 活動先の情報を受け取る。道順や所要時間について確認する。
- ・ 活動にあたっての心得や注意事項を確認する。

資機材の受取・送迎

- ・ 活動に必要な資機材。物品を受け取る。
- ・ 活動先まで移動する。(※活動場所がセンターから遠い場合は送迎)

現地での活動

- ・ リーダーの指示のもと現地での活動を行う。
- ・ 活動時間や体調管理、水分補給等に十分留意する。
- ・ 活動中に困ったことや判断に迷うことがあればセンターへ連絡する。
- ・ 時間内に依頼された活動が終了した場合、センターに連絡を入れる。

センターへ帰着

手洗い・資機材の返却

- ・ 資機材の洗浄、返却。
- ・ 手洗い、うがい等の衛生処理を行う。

活動報告

- ・ リーダーを中心に活動の振り返りを行う。
- ・ リーダーは活動報告書を作成し、センターへ報告。

退所



1
平常時



2
警戒期



3
立ち上げ期



4
復旧期



5
生活支援期



6
復興期

コラム

翌日のマッチング調整が大変です！！

災害 VC を運営する中で、翌日のマッチング調整を行う時間が長時間にも及ぶことがよくあり、閉所してから行うミーティング、特に翌日のマッチング調整に時間がかかり、長くなると現地職員も運営スタッフも疲労が溜まる一方です。そこで、できるだけ時間短縮する方法として、マッチング部門担当の現地職員（地域をよく把握していて、指示・決定を行える職員）が、昼間の間にできるだけ翌日のマッチング調整をするのです！周りがどんなにバタバタしていても、その職員はジッと椅子に座り、黙々とニーズの受付、ボランティア活動希望者の受付をこなしながら、翌日の調整をその場で行っていき、閉所してからミーティング時間はグッと短縮されます。

長時間に及ぶかもしれない災害 VC の運営において、従事するスタッフの心身の健康管理も重要なポイントとなります。

コラム

災害ボランティアセンターと災害時の公的制度

災害ボランティアセンターの支援活動において、現住家屋の復旧支援を最優先として、住まいを伴わない事業場や田畑などは、センターによっては対応しないと決めているところもあるようです。

ここで着目したいのは、センターの対応方針の是非ではなく、少なくとも被災者にとって事業所や田畑などは「生活の糧」となる大切な財産であるということです。

ですので、災害ボランティアセンターでは対応してもらえないが、生業に関わることなので、費用を負担してでも一刻も早く復旧にこぎつけたいという方、あるいは、自分ではとても作業ができないので、仕方なく業者にお金を払って復旧してもらおうという高齢者などもいらっしゃるかもわかりません。

平成25年台風18号豪雨災害時、南丹市災害ボランティアセンターでも「田んぼ」に流入した土砂の撤去にかかる問い合わせがありました。たまたま、センターに災害時の公的制度に関する知識があるスタッフがいたことで、「公的な補助制度があるかもわからないので、一度、市役所の農林課に問い合わせしてみても」との助言を行った経験があります。

実際には、制度が適用されるケースだったそうですが、もし、優先順位の都合でとか、対応しないと決めたのでなどの理由で、単に「支援をお断りするだけ」の対応をしていたら、ひょっとすると補助制度のことを知らないまま全額ご自分で負担されていたかもわかりません。

災害ボランティアセンターは、公的制度の詳細をすべて把握しておく必要まではないのかもわかりませんが、関係するかもわからない公的制度を知っているのと知らないのとでは、問合せへの対応が大きく違ってくるのではないのでしょうか。



(4) 運営上気をつけたいポイント

< ボランティアの安全衛生 >

ボランティア活動をされる方には、ボランティア保険への加入を呼びかけ、活動前のオリエンテーションでは、安全確保、病気・ケガの防止について説明をします。

活動から帰ってきたボランティアからの報告を受け、ケガをした場合は破傷風などに感染する危険があるため、事故などがあれば、直ちに救護所や診療所、病院などに搬送することも必要となってきます。

< 余震や雨天の場合の対応 >

悪天候の場合、または余震が続いている時は活動を中止する判断も必要です。例えば「当日の朝7時の段階で警報が発令されている場合は活動中止」など、活動中止の判断基準を決めて情報発信をしておくことにより、ボランティアの方の混乱を少なくすることができます。

また、活動中に余震や大雨が降り出した場合は、速やかに活動を中止することなど、オリエンテーションで事前に説明をしておきましょう。

< ボランティアの送迎 >

活動先が災害VCから遠隔地にある場合は、徒歩ではなく車やバス等で移動できるよう整備する必要があります。ボランティアの安全確保を図る観点から、自動車を利用する場合はボランティアの自家用車ではなく、社協等公的機関の公用車(普通車、ワゴン車、マイクロバス)などを使用する場合や、関係機関(企業等)から車をレンタルすることもあります。

過去の京都府内の災害においてもボランティアの移動に関して様々な工夫がありました。

《例》

- 運転手付きのタクシーやマイクロバスの借り上げによる送迎
- サテライトまで観光バスで一括送迎し、そこから徒歩で移動
- 日中のデイサービスの送迎車の活用
- 近隣の社協や支援団体より運転者付きで公用車の貸し出しの要請
- 地元の民生児童委員に道案内のために送迎者への同乗を依頼 など

< スタッフの健康管理 >

災害VCスタッフは、朝早くから夜遅くまで長期にわたり活動することも多く、健康管理は重要なポイントとなります。インフルエンザやノロウイルスなどへの感染が確認された場合は、ボランティアセンター内の消毒や被害が拡大しないように努め、ボランティアセンターの活動が、それらの理由によって中止することのないようにしましょう。





4 復旧期



1 平常時



2 警戒期



3 立ち上げ期



4 復旧期



5 生活支援期



6 復興期

災害V C様式(集)
ガイドライン

災害別のボランティア活動の留意点

豪雨、地震、豪雪など災害の種類や季節により安全確保の留意点が異なります。
次の項目を参考にしてボランティアの安全を図るようにしましょう。

【豪雨災害】

- 熱中症、日射病、切り傷・擦り傷(破傷風)、目に石灰やほこりが入るなど
- 服装は長袖、長ズボン、帽子、マスク、手袋を着用し、こまめに水分補給、塩分補給、休憩をとることや手洗い、うがいを行うことは基本
- 過信は禁物。スポーツマンタイプや体格のよい人の熱中症、ケガが目立った
- 石灰や消毒薬に関する知識も必要。石灰は濡れた素手で握ると火傷をするおそれがある

【地震災害】

- 応急危険度判定は外観による判定であるため、「黄紙」(要注意)、「緑紙」(調査済み)であっても、内部が安全であると判断されたわけではないので、活動の際には十分に留意する。事前に市町村災害V Cのスタッフが現場に出向き、確認して判断することが大事
- 家屋の被害の度合いについて、市町村が調査を行う場合があるので、家屋内外の片付けは家屋の持ち主に確認してから行うよう、ボランティアに十分に周知する
- 作業時はヘルメット、防塵マスク、手袋を着用する。複数人数で物を運ぶ時などは、お互いに声をかけ合う。作業にあたっては、必ず住宅の住人に立ち会ってもらふこと
- 活動中に余震が発生したり、突風が吹きテントが飛ばされたり、トタンなど廃材が飛んでくることがある。さらにアスベストを使用している建物では活動しないなど留意する

運営上気をつけたいポイント



〈ボランティアの安全衛生〉

- ☐ ボランティア活動保険への加入確認をする
- ☐ 安全確保、病気・けがの防止について、オリエンテーションで説明をする
- ☐ ケガ防止のため、夏場は暑くても長袖、長ズボンの厳守
- ☐ 転倒・転落・落下物の恐れがある場所での作業では、ヘルメット着用を義務付ける
- ☐ 靴は、長靴(底に鉄板入り、滑り止めのもの)や安全靴、長めの地下足袋などが望ましい
- ☐ ボランティア活動報告時に、ボランティアの病気・ケガの有無を確認する
- ☐ 市町村災害対策本部、看護協会、日本赤十字社等と連携して、常駐看護・救護スタッフを確保

〈余震や雨天の場合の対応〉

- ☐ 活動中に余震や雷、激しい大雨が降り出した場合は速やかに活動を中止する
- ☐ 悪天候の場合、活動中止の判断基準を事前に決定し共有しておく

〈ボランティアの送迎〉

- ☐ 活動先が遠隔地の場合、活動先までの移動手段を確保する
- ☐ 送迎を行う場合、運転者もしくは同乗者に土地勘が必要

〈スタッフの健康管理〉

- ☐ 市町村災害V Cスタッフの勤務日数や時間・体調管理
- ☐ 食事時間や休憩時間の確保
- ☐ 発熱や咳が続くなど、具合が悪い場合は休暇を取ることも必要

4 復旧期

復旧期の情報・ひと・もの・お金

情報 	ひと 
発信 - 被災者に向けた災害VCの周知 - ボランティアに向けた活動情報 - 災害VC内での掲示 (地域の様子、災害の概要など) - マスコミ対応 - 物資支援や募金など被災地でのボランティア活動以外の方法の発信 収集 - 被災者ニーズの収集 - 被害状況の収集(公式・非公式) - 災害VC支援団体・機関の情報 - 被災者の生活復興に関する制度情報	- ボランティア - 地元の支援団体 - 外部支援団体(NPO、NGO、各種団体)
もの 	お金 
不足物資の調達	- 災害VCの活動資金の調達 - 募金活動の展開

参考

災害 VC の資金調達

主な資金調達方法には以下のような方法があり、行政と事前に災害時の活動資金について協議の上協定を交わしている市町村災害 VC もあります。

- 全国社会福祉協議会「福祉救援活動資金援助制度」災害配分金
- 共同募金会「災害支援制度」
各市町村災害VCから、府共同募金会に申請を行う。
- 「京都府災害ボランティア活動支援資金」(京都府社会福祉協議会が台風23号災害時にボランティア活動を支援するために開設した募金)の活用
- 独自の活動募金
募金目的や内容等を詳細に明示し募集を行う。活動資金受付口座を開設し、周知する。
- 個人、企業等からの寄付等
- NPOなどが集めている活動募金への申請
- 各種基金や助成団体からの助成等



1
平常時



2
警戒期



3
立ち上げ期



4
復旧期



5
生活支援期



6
復興期